



88号

2017年10月

News letter

かもみーる通信

CONTENTS

- * サイエンス夢追い人育成プロジェクト
- * シンポジウム
- * カモミール・カフェ
- * カモミール月曆
- * 英語セミナー
- * 保育園たより

サイエンス夢追い人育成プロジェクト

(女子大学院生による出前講義)

9月26日(火)に、第7回目となる長良高校1年生対象の出前講義を岐阜大学にておこないました。今年度から1クラス減り、約360名が岐阜大学に来校して入試課からの説明を受けた後、3クラスに分かれて女子大学院生による出前講義を受けました。今年の講師の女子大学院生は3名とも昨年の経験者だったので、それぞれ約120名の生徒さんの前でも物おしせず、30分という講義時間の制限がある中でも、わかりやすく興味深い講義をしてくれました。



田中友里さん(応用生物科学研究科 応用生命科学専攻 修士2年)は、がん適切に抗がん剤を届ける研究を紹介し、就職予定先が食品開発であることについて、「関係ないように見えるかもしれないが、命を支える仕事という点では薬品も食品も同じ。自分のやりたいことがしっかりしていれば、どんなことにも対応できる」とコメントしました。



大江史花さん(工学研究科 物質工学専攻 博士後期課程1年)は、微生物からピロガロールという物質を作る酵素を発見するという研究を紹介し、「研究はロールプレイングゲームみたいなもの。まだまだ人生の目標なんて見つからないかもしれないけど、その時のために『経験値と体力』を今のうちからきたえておくこと」とメッセージを送りました。



比護友里恵さん(応用生物科学研究科 生産環境科学専攻 修士2年)は、豚の消化率を求める式の精緻化を目指す研究を紹介し、「獣医から動物園の飼育員、そして家畜の飼育から公務員へと、自分の目標がころころ変わったように思うかもしれないが、自分の人生の『軸』さえぶれなければ大丈夫。どんな状況でも自分のやりたいことを適切に選ぶことができる」とコメントしました。



出前講義担当室員である田中雅宏教授(工学部)と相原征代特任助教による指導のもと、リハーサルをおこないました。



カモミール月曆 (室長からのメッセージ)

副学長 (多様性人材活力推進担当) 林 正子

育児・介護休業等に関する規程等の一部改正

10月1日付で、「国立大学法人岐阜大学職員の育児・介護休業等に関する規程」が施行されました。これまで育児休業の対象者は、

- ① 勤続1年以上 ② 子が1歳6ヶ月になるまでに労働契約期間が満了し、更新
されないことが明らかでない場合、1歳6ヶ月まで取得可能

とされてきました。この度の改正によって、さらに、

- ③ 1歳6ヶ月以降も、保育園に入れないなどの場合には、申し出ることにより、
育児休業期間を最長2歳まで再延長が可能

になりました。

<改正理由>

2017年1月1日に、「育児休業・介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(1991年法律第76号)が改正されました。この法律は、妊娠・出産・育児期や家族の介護が必要な時期に、男女ともに離職することなく働き続けることができるよう、仕事と家庭が両立できる雇用環境を整備することを趣旨としています。しかしながら、保育園に入ることのできないケースも生じている現状を鑑み、離職防止を目的として、再度改正されました。

この改正を受けて、「国立大学法人岐阜大学職員の育児・介護休業等に関する規程」が10月1日付で一部改正された次第です。該当する教職員が、それぞれの事情に応じた働き方を選ぶことのできる制度が整いつつあります。広く構成員の皆様にご共有いただければ幸いです。

東海地区国立大学法人等 女性活躍推進研修

9月19日(火)と20日(水)の両日、岐阜大学サテライトキャンパスを会場に、「平成29年度東海地区国立大学法人等 目的別(女性活躍推進)研修」が開催されました。この研修は、愛知・岐阜・三重・静岡の4県に所在する国立大学法人、大学共同利用機関法人、独立行政法人国立高等専門学校機構および国立青少年教育振興機構の事務職員を対象とするもので、活躍の期待される女性職員への働きかけや、女性の働き方についての意識啓発を目的とする今年度の研修は、係長相当職に就いている女性職員、13機関33名(岐阜大学6名)の参加者を得ての開催となりました。

指導講師としてお招きした一般社団法人日本経営協会講師の毛受誉子(めんじょう・たかこ)氏による講義・演習・討議のプログラムは、次の通りです。

1. これからの女性の働き方と意識
2. 女性のキャリア形成と大切にしたい価値
3. 女性が手に入れていくキャリア開発
4. ワークライフバランスの実現のために
5. 男女共に育児・介護・看護をしながら仕事でもキャリアアップ
6. 総括講義・全体質疑応答



岐阜大学からは、グローバル推進本部の野々村晴子 国際企画調整役が特別講演「女性管理職としての経験から」を、私が基調講演「女性職員の活躍による大学の発展に向けて」を担当しました。

実施後のアンケート結果からは、毛受先生の明快でユーモアあふれ講義によって、女性係長の皆さんの向上心が大いに喚起され、大変有意義な研修であったことが伺えました。

また、「女性管理職」としての立場・経験から語られた野々村さんの特別講演は、①なぜ管理職になろうと思ったか、②どうやって管理職になったのか、③管理職になってみてどうだったか、④女性が管理職になるということ という具体的・実践的な内容で、キャリアアップを控える女性係長の皆さんにとって、大いに参考となるロールモデルとなったようです。アンケートにも称賛の感想・意見が連ねられており、この度の研修の充実を実感させていただいた次第です。

人材開発部の早野美里 職員育成課長、古田圭子 職員育成係長はじめ、実施運営にあられた皆さん、本当にどうもお疲れさまでした。



シンポジウム

9月28日（木）に岐阜女子大学で、今年度のダイバーシティ研究環境イニシアティブ（連携型）のシンポジウムを開催しました。基調講演に、日本学術振興会学術システムセンター顧問の黒木登志夫氏をお迎えし、「社会と自然の基本は多様性」と題してご講演いただきました。生物学的な有性生殖における多様性の話から、日本社会の現状まで、多様性をキーワードにさまざまなレベルのお話をしていただき、とても興味深い講演でした。

その後、「女性の「働く」を応援する——地方を生かした研究力向上」をテーマにパネルディスカッションが



▲黒木 登志夫 氏



▲パネルディスカッション

おこなわれました。モデレーターに三輪聖子氏（岐阜女子大学家政学部教授）、パネリストに伊佐保香氏（岐阜女子大学家政学部講師）、伊野陽子（岐阜薬科大学薬局薬学研究室講師）、清島真理子氏（岐阜大学大学院医学系研究科教授）、田澤茂実氏（アピ株式会社長良川リサーチセンター研究員）をお迎えし、それぞれのご経験談を交えながら、地方でも、また、地方でこそ研究とライフイベントは両立可能であり、本プロジェクトで支援している研究補助員や夏季休暇中の学童保育などがいかに有効であるかについてのご発言が続きました。



英語セミナー



9月20日（水）に、岐阜薬科大学で、「英語セミナー 研究者のための英文Eメールの書き方とマナー」が開催されました。4連携機関から計25名の方々にご参加いただきました。

セミナーは、第1部 英語Eメールのフォーマット・基本的な英語Eメールの書き方、第2部 研究者としてEメールを書く場合、第3部 実戦編（PCを使用してEメールを書く）の3部構成でおこなわれました。

3時間という長時間のセミナーでしたが、受講者は休憩時間も惜しんで講師に質問するなど、非常に熱心に取り組んでいる姿が印象的でした。海外の研究者とのEメールのやり取りは、研究者にとっては必須であり、豊富な具体例を用いた実践的な要素も含んだ本セミナーは、全受講者にとって大変有意義であり、終了後のアンケートでも受講者全員から「役立った」との回答がありました。

同様の企画として、本事業では11月29日（水）、30日（木）に岐阜大学で英語論文&プレゼンテーションスキルアップワークショップを計画しています。どうぞ是非ご参加ください。

カモミール・カフェってどんなところ？

Q. どこにあるの？

A. 大学会館 2階 生協中央店の向かいにあります。



Q. 誰が利用できるの？

A. 学生、教職員、男女問わず、どなたでもご利用いただけます。

Q. いつ利用できるの？

A. 平日の9:00～17:00です。（講演会などによりスタッフ全員が不在のときは利用できない場合もあります。）

Q. カモミール・カフェでは何ができるの？

A. 男女共同参画や子育て、キャリアパスに関する図書や資料を閲覧することができます。図書は貸し出しもできます。また、キャリアガイダンスやセミナー開催、研究と生活との両立などについて相談することもできます。



▲ 入り口付近



▲ オープンスペース



▲ 図書・資料

ニホンイシガメ 放流会

保育園たより



9月13日（水）応用生物科学部 動物繁殖学研究室の楠田哲士准教授と生物生産環境科学専攻の前田佳紀さんが企画した、淡水生物園での「ニホンイシガメ放流会」に園児たちが参加しました。はじめはカメを触ることができなかった子どもも、他の子がカメを持っている様子を見ているうちに「ぼくも触る」と手を伸ばし、今ではなかなか見かけることがなくなってしまった準絶滅危惧種であるイシガメとのふれあいを楽しみました。3日前に生まれたばかりの4匹の子ガメにも会うことができ、みんな大喜びでした。



先生にカメの持ち方を教えていただきました。



カメさんの甲羅の横をしっかりと持ってね。



カメさんが驚かないようにそっと放流



イシガメさん元気に大きくなってね♪

★ ニホンイシガメについての詳しい情報は、下記URLに掲載されています。

＜淡水生物園＞（在来水生生物保全池）
<https://www1.gifu-u.ac.jp/~zoology/contents/hcc/hcc.html>

＜動物繁殖学研究室＞
<https://www1.gifu-u.ac.jp/~lar/>

＜カメのお話＞
https://www1.gifu-u.ac.jp/~lar/contents/lar_column/lar_column.html

＜ぎふの淡水生物をまもる＞（45ページ参照）
<https://blogs.yahoo.co.jp/zooreplab/56416870.html>

